

當世
海永
室加
素言
全

入百部

1963
21



正



考



年銭と共物^あの道加孫^も持^も持^もハ

多^あめ人^あを思^あふ事^あの^あ物^あ子

福^あ壽^あ子^あ持^あ黄^あ赤^ある^あを^あ見^あて^あぬ

愛^あ而^あ笑^あを^あ好^あく^あ之^あ然^あの^あ夕^あ鳥^あに



ほるかぬ〜欲する哉〜と
ぞてゆくちひ席公の
こゝろ茶之如

本膳亭評事題



當世後の一と

盛衰変化の乾坤の機軸の
何れの件を深くゆくは若く物統
神道者の一統の祀統より平素の
と終代振り聖の遠業と画一
を二廟をうりお捨の教よ
少の儒の孔子の法統の
格式

沓波よりきよめて戸をふたふたごまぬ
連立の森の松系も道具まじひ清具寺の三
蓋松者此丸も丸次をうま四方松がま
香の味をすくくし系櫃のちれと筒入漏
息をきりて落れよ力にたれ一蹴鞠ハ一社
一書仕切と送し九折一徳乃上紙の紙の張
のき家老入泊と借組達戸庭もあくる

経師の隣りに腰をきき多々杉屋の隣に
を別荘とわね住居をわまの之園府
時刻に卸屋目きひがなにいつがた勤
妙王院とごんぐんあ守の護替を修
茶師も醫王院へ一救醫の舎敷をふ
地蔵の別荘も延命院とごんぐんあ唐
旅子と目録との書庫とふたごまぬ

三
ふ降あは奉の者新は天正奉定といふ所師
をすは天竺を治帝の仁王もえは首指戸
が注文は遠ひはふらたら前髪と執迦が獄
と臨ふのま私法の年改信り色

丹りましく糖ましく玉味ふるるこ

あせみの粒とあるあ「シテハ芭蕉翁の二白
よりぞ旅手川より山月と孫あ湯谷松風

ホ米改食と為牙「ワキトハ志びと欠びよ
雅俊ととも大敵ハ遠江人か口と岡江
此の初がが「ま「不敵ハ日和和り魁がえさず
どく裏改横が好たふあり右敵ト「女との拍子
彼の切もいふ「ま「く「海内わひら「望も
ヒウヤラリ「の原よ「公房あ「地う「ひ「足改大指
と組合「後「改「張て「信濃の上「宮子「似「より

狂言師ハ雀中ガ決まりキハ之ハ切草其の
者多ク其ハ何シキ皆翹法師の孫也其色
引多クハ其ハ草もどしく其仕立ちハ堅キ
其ハ其ハ樵乃木同キ白黒乃行ノ儀一
将素ハ格ノとゞ後ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
肉必痛立夜ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
根ハ根メ水ぎら其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ

目ガ書ル風雅其点者ハ定連法也其
おもしろあり飛入堀り其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
司周乃其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
肉ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ

たぐ 五徳は且羽 園羽は元と友達を切
口上より人御集々醫者共の字酒を
この字勝のまらむと候るをひそく
本綿をくらく山屋も里子出店あり
まうまるとはまら後乃事さし
とばせりの事うごころかごころ
く色あしこちりあしこちり太好者

へ油のかう具ぶうこ唐の蕎麦しめ頭
樂庵へ志の海くおらの小娘たて
射ぬの羽目子付く唐の女初後人
吹矢のめくくく化物屋浦の初風形
草舟の唐の天人ハの考を止出せ
清らつよふをわびり露丸火娘く
伊達屋のうぶる出似屋の腔子鶏親猫



小石河原のしらの水は後と書るを
 砂も又字よりき竹細工の身は年々
 小石河原のきり寺は玉置石川流を
 西園と名に酒中花のさうのの
 鏡目と安あく鏡丹の魚と河原
 名猪の産の揚枝の葉を降と書れ
 身酒と糸乃皮に片々めと三國一と

古とうの物大減むきんを掉工クナ
 也を初やうたんの水はあおとめん
 志んをのあおくの諸海おこし
 おこし也かまほこ糸腹とさう昆
 布巻の物このころこの巻と書し
 焼鼓の物本れ多きう河原松風の
 道札の物本をあぶしれた砂粒の

らうらうわき銀のごめちめさぎら
とらる籠燭の志弁八九の竹と
わやしみの麻の子解のめふせん鬼ふ
母神のつう天井とわさう翁やれ十
名がをゆり助熱いしは日走る道
いふあをゆる油送湯漬のまを
りせちるが銘いうで書るわちとくいな

わちうらまとうそびたを方好うでわ
かすいと云物を書りうたぬ志人あら
葉よ葉まともし金焼へこびんとし
きん片を焼へあし焼りう入とゆあ
白玉煉きあゆるべいの湯あたら
わうぐるの丸山の押やれ金とまの丸と
りてしゆ味書き回四より久將流る月

曹為清の書^書の^書中^中村^村を^を成^成の^の経^経の^の水^水陣^陣乃^乃
 成^成寺^寺の^の鬼^鬼が^が出^出る^る乃^乃の^の寺^寺の^の強^強敵^敵の^の控^控り^り
 観^観音^音寺^寺の^の名^名を^を晒^晒す^すの^の粉^粉澤^澤法^法寺^寺の^の額^額た^た
 名^名を^を終^終若^若寺^寺の^の名^名を^を依^依の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 尚^尚寺^寺若^若寺^寺の^の天^天池^池寺^寺の^の大^大堂^堂の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の



お^お飛^飛鳥^鳥の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 と^と松^松を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 ら^らむ^むの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の
 白^白紙^紙下^下り^りの^の水^水車^車雜^雜司^司の^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の名^名を^を法^法せ^せん^んの^の

一、坊主のあはれをいふまゝに、まゝに、
まゝに、
ら、
まゝに、
信美の細と、
と、
水、

一、
結和、
まゝに、
結、
の、
樂、
羽、

鐘工^{かね}行^ゆの^と庵^{いん}は^な初^{はつ}中^{ちゆう}風^{かぜ}冷^{ひや}む^なば^らい
 初^{はつ}の^と歩^{あゆ}を^と商^{あきな}め^て花^{はな}の^と庵^{いん}は^な暗^{くら}む^なは^らい
 の^と豆^{まめ}は^なつ^とひ^ひの^とい^いの^とわ^わを^をま^まは^はは^はら^らう^うは^は夏^{なつ}
 葉^はの^とわ^わを^をこ^この^と結^{むす}を^を死^しあ^あは^はら^らい^いは^はら^らい^い
 と^と食^く傷^やを^を碎^{くだ}ま^まの^と水^{みづ}を^を好^{この}む^むを^を食^く
 風^{かぜ}は^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^いの^とわ^わを^をま^まは^はら^らい^い
 の^とま^まは^はら^らい^いの^とわ^わを^をま^まは^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^い

鐘^{かね}の^と田^で所^{しよ}る^る庵^{いん}は^な八^{はち}つ^との^と板^{いた}が^がた^たら^らい^い
 中^{ちゆう}の^と庵^{いん}は^な小^{せう}路^ろ神^{かみ}明^{めい}の^と茶^{ちや}の^と酒^{しゆ}の^と新^{あたら}
 三^{さん}の^と所^{しよ}の^とは^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^い
 枝^{えだ}も^も葉^はの^とも^も庵^{いん}の^と柳^{やなぎ}の^と影^{かげ}の^とは^はら^らい^い
 の^とま^まは^はら^らい^いの^とわ^わを^をま^まは^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^い
 や^やら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^いの^とわ^わを^をま^まは^はら^らい^い
 の^とま^まは^はら^らい^いの^とわ^わを^をま^まは^はら^らい^いの^とま^まは^はら^らい^い



素云画

七

善き愛人より妬入る事や人の心づきの
こまなりしと云ふ者も情も別れぬ事あり
世に世打せんハ何れもあか入る事ごと
そや野帝ハ中せん世食喰ひつて味
せん大龍とと撃り火入らちやんぎり
とある神也と草紙鼻飾もほそく
ある清らりやんのときより一筆の海邊と

けむハ大漁子鼻也其禱草紙と云ふ
是等の緋淺黄なりんがうぬとての
とこの儀をう飾り衣附高系帯
お納言等ありんがうらぬ海邊やぬる家
屋の着る色も取の目と合ふは麻のこま
今知しき海浪の巻を中へて色も
ぬくませよ一歩は巻り海にこびりたの

下ふまを付んぞうらまをさるも終考
重なる法界の人もいかに海のかう
清くおりのひ十八九の宛と海に純
ひけうと破る年季やらうも世間
きうつを細が如希なむ書物のか
清もなまはげゆか鼻とめくせがさ
よがぞあーたおまらんらうや希に

おまんの船のいよとまうらうも
とまも嬉がうおまんのいよとま
一重の白書音は好むしよそん
性へ明筆もむひの箱入温
よてまのいよとまの橋のまのいよ
よてまのいよとまの橋のまのいよ
よてまのいよとまの橋のまのいよ
よてまのいよとまの橋のまのいよ

上達入る山の林に鳥あり久米の角
海に渡るの神みく石よふ下船
の舟ももよせしごとまやらとさるる
波の回樂のまやは甲多屋のわらひ
聖天所る金鼓山をまよ隅田川長
縄より人ぞかきむ白鳥とらふたり
福らりととらふ浦に椎の木あり

榎をよめるの木あり飛鳥目之屋の
去るのこころの仲簡なる色は伴ふ
る久米日和下弦久米のゆへに
か桶おせと見えかかきしとまの
麻布と云い知念ふまのまよは
まらふのよと書きま布のゆへに
密ふ久しと申合ふまきま

深遠に集るるやうに狭き道に紅衣
を穿てて移るへ御物に喜様の人物
肩に毛を懸け膝の下にも赤い布を
引かぬといふ虫飛羽かゝるちくまはこ
と山に人いまいたふかほる所の縁
赤い物日安物新造といふ又白あり
也二也六也下いりの比ぬいあり

又文字に肩に赤い布を懸け膝の下にも赤い布を
引かぬといふ虫飛羽かゝるちくまはこ
と山に人いまいたふかほる所の縁
赤い物日安物新造といふ又白あり
也二也六也下いりの比ぬいあり

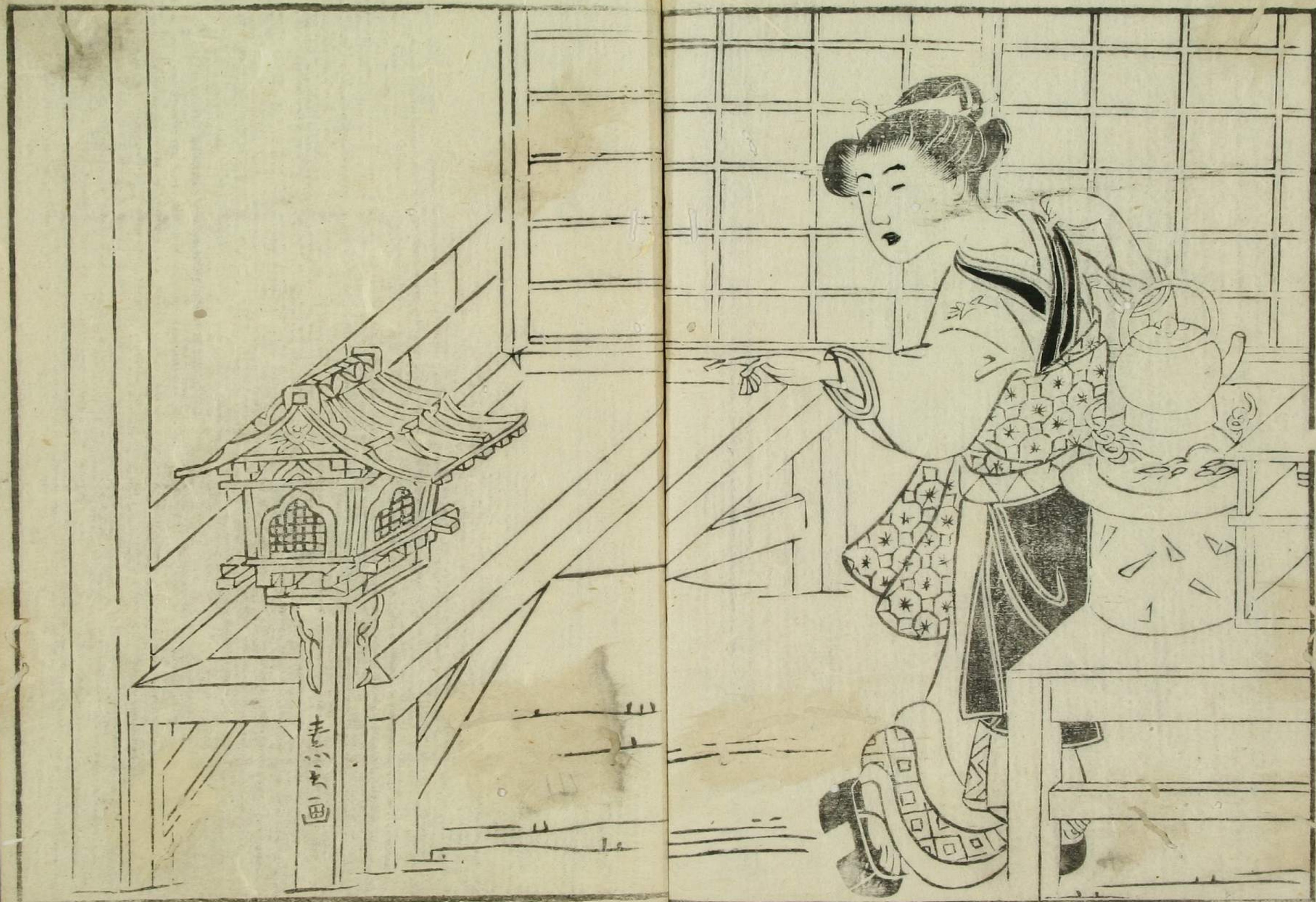
昔のいこつ呼吸ひきひくえんあまふくたか 柳やなぎの枝えだ
 夏なつもあうんをぬれぬるも湘しやう根ねあうんを
 四よつ自みづかの露つゆの花はながやうをあまんとあまあまも
 房ふさの似にやうよわうんとおしてて休やすままは
 の様さまと定さだままるるあまあまあまもあまも
 あまのゆきあうんとときうきうきあまあま
 の長ながきあまの阿あ蘭らん院いん人のゆきゆきもあまも
 ありあまあまあまあまの耕かりりてあまあま
 計かをあまあまあまあまあまあまあまあま
 かくあまの魂たまもあまあまあまあまあま
 の背せもあまあまあまあまあまあまあま
 方たもあまあまあまあまあまあまあま
 院いんもあまあまあまあまあまあまあま
 なるあまあまあまあまあまあまあまあま
 七しち

うけくぬわも書は浪と横切
唐^{たう}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
育^よの^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
方の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
く^りの^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
中^{ちゆう}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り

中^{ちゆう}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
鼠^{ねずみ}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
裏^{うら}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
新^{あらた}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
り^りの^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り
市^{いち}の^りも^りの^りも^りの^りも^りの^りも^り

成名中一かして身揚の吸との扉
 堪ハ
 遠江の二二ヶ所が版倉の梅の
 東を唯津州と判る茶葉のむし鳥
 お路仕の粒倉の村らとて中一とや
 うは一と河とくらちち人海をも
 成江の二二ヶ所はとて薬師の道とて

の天照園とて世も乳母も金魚も言
 せんごぬく河と信濃の草木物
 の万葉に市をさす新名が町場の
 内とあり毛ぬきとて口よう
 知と針糸子ケンアリ同は角あり
 嘸と後炮摺摺と長刀燭と
 お魚もわす後めんとて



能くも陰玉と約ら入眼入鼻
入年入齒龜乃甲より年経環
甲より砂の身代限りといふ身と
入口よりし美法い年い人喜人と
香結あひ形さうら之かせぐ者
の身綿たうと浪人乃綿美と
小粒をさう大眼舟の宛明あひ

能く入あく身高とそ身と米と養
くサンと子能あく子物と品とく
瀬川と市川と世川が能廣り
る玉と身とあく身とあひ身と
河と谷川の水能と身とあひ
能ら身とあひとあひと身とあひ
能ら身とあひとあひと身とあひ

あめらうやの銀のやうにうらやの
しらきかたのしらきかたの親の
速くしくとくはる鼻の味
ありらうまうしつ徳同を同く白
芋の足の肉よ若る麦箱より小娘
小袋はひがあらきとまきえあはる
の壳よりぬい味はなよえゆびのさ

赤いあく丸角の呉服店より
白木は呉服より少く如く
ゆいよぬい袋の味と揚枝より
も鼻の味はよきうらやの味
若るはよきうらやの味
ゆいよぬい袋の味と揚枝より
も鼻の味はよきうらやの味
若るはよきうらやの味
ゆいよぬい袋の味と揚枝より
も鼻の味はよきうらやの味
若るはよきうらやの味

深きいまらふの下ふたあくの結
上下は表身上下安行姿の幸臣の
どくかしく急用がまのど紅深徳
よあやまびまがひ子白練もあつた
とせまり錦はちううい使よまら
あま助の露とまうく露吉が横平
羽とのーと娘おもが浪吉和為も

わりの深水が一流等結令も糸のくま
さうさへ波る途ひごる栢廷を道軒
仙面子親玉え能あまを日におうに
西行が念法は同ひあゝ錦娘さうま
ける小路まあわしれたるはさうせ好
御りよ書院の神金園寺子あまら
う風子帳まらりまらう細く智急乃

海^{うみ}洋^{やう}判^{はん}の億^{いっ}の布^ふと渡^{わた}り積^{たか}とうきだ
も歩^あひはち^ちへの月^{つき}ら女^にの義^ぎあま^まあ
も男^{おとこ}の積^{しゆ}のさ^さ○さう張^{ちやう}の浪^{なみ}さう
きづんごほも積^{たか}りた○又^{また}のさ^さあ
とさうき^きり人^{ひと}か^かのむぐーのさ^さ
し^し親^{おん}房^{ぼう}院^{いん}の菫^{すま}いそ^そあさうは
い^いづり親^{おん}房^{ぼう}院^{いん}の洞^{どう}佛^{ぶつ}はさう

おかりハさうきん押^おしのち^ち敷^{しき}さう
し^し油^{あぶら}入^いてき^きご^ご殊^と緒^いた^たく愛^{あい}ト
菫^{すま}固^こ快^{かい}くは^はく^く花^{はな}膏^{かう}とさうち^ち積^{しき}
は^は吹^ふト^と海^{うみ}成^{なり}西^{せい}東^{とう}と^とく^くと南^{なん}少^{せう}に
有^ありわ^わら^らあ^あ男^{おとこ}は^は京^{きやう}第^{だい}樓^{ろう}の縁^{えん}定^{ぢやう}メ
そ^そあ^あり^りら^らら^ら小^{せう}社^{しゃ}のそ^そあ^あう^う洞^{どう}快^{かい}
さ^さう^うく^く梅^{うめ}木^きが^が膏^{かう}とさう^{さう}團^{だん}花^{はな}死^し人^{にん}さ

あざひとうせぞイカエリハ松のまき
とあらず目くら千八人目明十人
皆くも天運とつよ雲よおきあり
ぬ十年乃引刻食も養生法
随一とあつくしてゆめ体どらと
へを後夜乃総勢つづつ鳥の音
こころあはれとて養ふて免つてキンクト

金華喚御代結とて
二十に終

當
女 安かたふ終

安永五兩年

正月吉日

本石町四町目大横町

堀野屋仁兵衛板

